

浜松市教育研究会 音楽科研究部研修会
第2回音楽科研修会 報告

令和7年8月4日

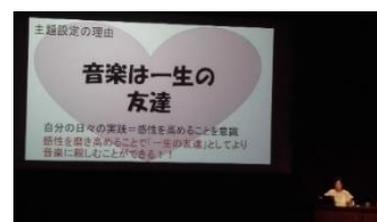
福祉交流センターで行われた第2回研修会は、第1回目につき、浜松市歌の斉唱でスタートしました。この日に参加した200名程の先生方の素晴らしい歌声が、ホールいっぱいに響き渡りました。

【全体会】実践発表 砂丘小 高野 友 先生

「音や音楽に対する感性を高め、よりよい音楽表現を追求する音楽科の学習を目指して」

～低・中・高の系統性を意識し、児童の発達段階に応じた指導～

砂丘小で全学年の音楽科を担当している高野先生は、日頃から「音楽は一生の友達」を意識されて実践されており、「音楽に苦手意識はある」ものの「音楽が好き」という子供たちのアンケート結果からも、その実践がいかに子供たちに響いているのを感じました。子供たちに、音や音楽に対する感性を高めるための実践を発表していただきました。



常時活動では、ドレミ体操や階名、リズム学習を子供たちが親しみやすい旋律やクイズ形式で取り入れられたことで、自然に音感や読譜力が身についていく様子が分かりました。また、気づきや感じ取りを深めていくための実践として、音楽的要素や音楽の仕組みを表現された絵の掲示や「音楽の言葉の宝箱」の配付が、子供たちの音楽表現を大きく変化させていました。授業展開では、指導要領の目標を基に、低・中・高学年と発達に合わせて段階的に指導したことで、高学年の目標である「思いや意図」をもつことができ、表現の幅が広がっていました。

高野先生の発表を聞き、子供たちの「音や音楽に対する感性」が不足していることや、系統性をもった指導がいかに大切であるかということを実感しました。高野先生の発表で紹介された多くのアイデアを、2学期からの実践に生かしていければと思います。

【実技講座】講師：蓮沼 勇一先生(合唱指導者)「合唱指揮実践 ―明示と暗示―」

蓮沼先生にお越しいただき、基本的な指揮法から合唱曲の指導法を学びました。

1曲目の「ふるさと」では、まず指揮棒の持ち方や振り方を教えていただくと共に、ブレスの前には身体で中心で止めるという技法を教えてくださいました。2曲目の「ぼくはぼく」では、音取りや拍取りに有効な「たたき」とゆったり歌う際の「しゃくい」や、リタルダンドを表現するための裏拍の感じ方について実践を行いました。3、4曲目の「夢の世界を」「時の旅人」では、クレシェンドを表すための振り上げや身体の使い方、アツチエランドを表すための跳ね上げについて、5曲目の「大地讃頌」では、デクレシェンドをする際の合図の出し方を学びました。



2時間とは思えない程の様々な指揮法を伝授していただきました。「どの曲においても、考えはフリーでいい。思いや意図をもつことが大事。」という蓮沼先生のお言葉にあるように、教えていただいた技法が生きるよう、それぞれの曲についてまずは教員自身が思いをもって指導にあたっていけたらと思います。